

# ごみ焼却工場整備・配置計画の改定について

## 背景

令和7年度の一般廃棄物処理基本計画の改定に合わせ、新たな整備・配置計画の検討を行った。

### 整備・配置計画（前計画 R2.3月策定）

【構成市のごみ処理量は、最新の計画値】

令和（年度）		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
大阪市ごみ処理量（万トン/年）		87.4	88.2	91.2	88.6	88.5	88.2	87.9	87.6	87.3	86.7	86.2	85.7	85.3	84.7	84.2	83.7					
八尾市ごみ処理量（万トン/年）		6.3	6.2	6.1	5.9	5.8	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6					
松原市ごみ処理量（万トン/年）		2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5					
守口市ごみ処理量（万トン/年）		3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7					
① 合計ごみ処理量（万トン/年）		99.5	100.2	103.1	100.3	100.1	99.4	99.0	98.7	98.4	97.8	97.0	96.5	96.1	95.5	95.0	94.5					
② 1日当たりのごみ処理量（トン） 〔①×10,000÷290日〕		3,432	3,454	3,556	3,458	3,450	3,427	3,413	3,402	3,392	3,371	3,344	3,327	3,313	3,292	3,275	3,258					
工場名	竣工年月																					
住之江	R5.3	供用年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16				
		日処理能力	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400			
鶴見	R11.3 （予定）	供用年数	建替					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
		日処理能力	建替					620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620			
西淀	H7.3	供用年数	28	29	30	31	32	33	建替										1	2	3	4
		日処理能力	600	600	600	600	600	600	建替										600	600	600	600
八尾	H7.3	供用年数	28	29	30	31	32	33	基幹改良	1	2	3	4	5	6	7	8					
		日処理能力	600	600	600	600	600	600	300	300	600	600	600	600	600	600	600	600	600			
舞洲	H13.4	供用年数	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	基幹改良	1	2					
		日処理能力	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	450	450	900	900			
平野	H15.3	供用年数	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	建替					
		日処理能力	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	建替				
東淀	H22.3	供用年数	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
		日処理能力	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400			
③ 処理能力計（トン/日）		3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,520	3,520	3,820	3,820	3,820	3,820	3,970	3,970	3,520	3,520					
処理余力（％） 〔（③-②）÷②×100〕		11	10	7	10	10	11	3	3	13	13	14	15	20	21	7	8					

※季節変動によるごみ量増および故障等を考慮し、10%程度の処理余力確保が必要。

## 前計画の課題

- ① 処理余力不足
  - ・大阪市の前計画では、令和7年度ごみ処理量84万トンを目標としていたが、新計画では目標達成時期を令和20年度と設定。
  - ・社会経済活動の活性化等の要因によりごみ減量が進んでいないため、西淀と八尾を同時期に整備すると処理余力が不足する見込み。（令和11～12年度）
  - ・主力工場である舞洲(900t/日)は老朽化が進行、故障停止リスクが高い傾向にあり、処理余力3%以下では安定的なごみ処理体制を確保できない。
- ② 工場の老朽化
  - ・令和10年度末において4工場が供用開始から25年以上経過しており、建替時期を迎えている。
  - ・ごみ減量が進んでいない現状では、例年実施しているメンテナンスに十分な工期を確保できず、本来必要な補修を十分に実施できない。
  - ・各工場とも老朽化が進行した設備が多く、故障停止が増加傾向にあることから、早期に建替等の大規模整備が不可欠。
- ③ 建替工期の長期化
  - ・前計画の建替工期は6年としているが、働き方改革等の影響により全国的に建替工期は長期化している。
  - ・今後の建替に必要な工期は7年以上となる見込み。西淀建替中に他工場の老朽化がさらに進行する。
- ④ 建設費用の高騰
  - ・建設資材の高騰、働き手不足による人件費の高騰により建設費用は急騰している。
  - ・今後も高騰する見込みであり、財政負担は、より厳しくなることが想定される。

## 新たな整備・配置計画

【構成市のごみ処理量は、最新の計画値】

令和（年度）		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
大阪市ごみ処理量（万トン/年）		87.4	88.2	91.2	88.6	88.5	88.2	87.9	87.6	87.3	86.7	86.2	85.7	85.3	84.7	84.2	83.7	
八尾市ごみ処理量（万トン/年）		6.3	6.2	6.1	5.9	5.8	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	
松原市ごみ処理量（万トン/年）		2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	
守口市ごみ処理量（万トン/年）		3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	
① 合計ごみ処理量（万トン/年）		99.5	100.2	103.1	100.3	100.1	99.4	99.0	98.7	98.4	97.8	97.0	96.5	96.1	95.5	95.0	94.5	
② 1日当たりのごみ処理量（トン） 〔①×10,000÷290日〕		3,432	3,454	3,556	3,458	3,450	3,427	3,413	3,402	3,392	3,371	3,344	3,327	3,313	3,292	3,275	3,258	
工場名	竣工年月																	
住之江	R5.3	供用年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		日処理能力	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
鶴見	R11.3 （予定）	供用年数	建替					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		日処理能力	建替					620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620
西淀	H7.3	供用年数	28	29	30	31	32	33	基幹改良	1	2	3	4	5	6	7	8	
		日処理能力	600	600	600	600	600	600	0	0	600	600	600	600	600	600	600	600
八尾	H7.3	供用年数	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	基幹改良	1	2	3	
		日処理能力	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	300	300	600	600
舞洲	H13.4	供用年数	22	23	24	25	26	27	28	29	基幹改良			1	2	3	4	5
		日処理能力	900	900	900	900	900	900	900	900	900	450	450	450	900	900	900	900
平野	H15.3	供用年数	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	建替
		日処理能力	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900
東淀	H22.3	供用年数	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	基幹改良		1
		日処理能力	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	200	200
③ 処理能力計（トン/日）		3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,820	3,820	3,970	3,970	3,970	4,120	4,120	4,220	4,220	3,520	
処理余力（％） 〔（③-②）÷②×100〕		11	10	7	10	10	11	12	12	17	18	19	24	24	28	29	8	

※平野工場建替時の処理余力は8%だが、先に4工場を健全化し、故障リスクを低減することで対応。

## 課題への対応

- ① 処理余力不足
  - ・西淀と八尾の整備時期をずらすことで、処理余力を確保する。
- ② 工場の老朽化
  - ・西淀を基幹改良工事※1に変更することにより、建替工期と概ね同等の期間で西淀、八尾、舞洲、東淀の4工場を健全化・延命化する。
- ③ 建替工期の長期化
  - ・早期に4工場を健全化することで炉の故障停止リスクを低減させ、速やかに安定的なごみ処理体制の構築を図る。
- ④ 建設費用の高騰
  - ・延命化により、ライフサイクルコスト※2を低減、ごみ処理に係るトータルコストを平準化するとともに、財政負担の軽減が期待できる。

※1 基幹改良工事とは、工場の延命化を目的に、主要設備の大規模更新等を行うもの。（工期：2～3年）  
 ※2 ライフサイクルコストとは、建設～稼働～廃止されるまでに費やされる建設費や運営費等の生涯費用総計。  
 【参考】環境省は工場の延命化を図り、ライフサイクルコストを低減させ、効率的な更新整備の充実を推進。他都市でも延命化を図ることが主流となっている。

## 今後の方針

- これまで供用開始の古い順に工場の建替えを行ってきたが、基幹改良工事を活用し、工場の延命化を図ることで、ライフサイクルコストを低減する。
- 今後のごみ処理量の推移等を見極めながら、必要に応じて見直す。
- 工場の運営形態については、引き続き民間委託の導入も含めて検討を行っていく。